

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 19 日現在

機関番号：32665

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20K00259

研究課題名(和文) 日本における1980年代の非商業上映と文化政策の研究

研究課題名(英文) Non-Commercial Screenings and Cultural Policy in Japan in the 1980s

研究代表者

田中 晋平 (TANAKA, Shimpei)

日本大学・芸術学部・研究員

研究者番号：90612870

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、1980年代に日本各地で行われてきた非商業的な上映活動の調査を進めた。1980年代には、それまでの自主上映グループによる活動の一部が、ミニシアターへと移行していく過程が認められる。特に関西地域における自主上映やミニシアターの開設に着目し、上映グループのメンバーへのインタビューとともに過去の資料の発掘を進め、日本映像学会での研究発表および同学会誌に掲載された論文などで、研究成果を公表した。また1980年代以降の美術館やアートセンター、フィルムライブラリーなどで行われた映画上映活動、およびビデオ作品の収集活動の調査も行い、公共的な上映活動の歴史についても検討することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
映画の非商業的な上映活動の歴史は、商業映画館の歴史研究や観客論が盛んに行われている現状でも、未開拓な研究領域のままである。本研究では、1980年代に各地で行われていた自主上映活動の一部が変容を遂げ、ミニシアターなどの商業映画館の活動に移行していく状況を、資料やインタビューに基づき示すことで、現在われわれが享受する映画館文化が形成される過程を考察することができた。研究開始時の2020年、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が生じたことで、改めて映画館の価値や公共的役割が議論されたが、本研究が提示した視座は、こうした上映空間の公共性を歴史的に再考していくためにも有益であると考えられる。

研究成果の概要(英文)：In this study, we surveyed non-commercial film screening activities across various regions of Japan in the 1980s. This was a period during which some independent screening groups transitioned into establishing mini-theaters. We focused particularly on the Kansai region, where we interviewed members of screening groups and uncovered historical materials. Additionally, we investigated film screening and video collection activities at museums, art centers, film libraries, and similar institutions since the 1980s, allowing us to examine the history of public screening activities.

研究分野：映像学

キーワード：自主上映 ミニシアター プラネット映画資料図書館 公共上映 美術館 文化政策 1980年代

1. 研究開始当初の背景

映画の受容研究および映画観客論などは、かつての映像作品の分析を主軸とした記号論や構造主義、精神分析、フェミニズム理論などの影響を受けた映画理論に対し、時代や地域ごとの多様な映像受容の意義に着目する研究アプローチとして、欧米を中心に1970年代頃から発展した。日本でも初期映画の観客や映画館の研究などが蓄積されてきたが、映画常設館ではない空間で開催されてきた、非営利の映画上映活動に関する調査・研究は、いまだ蓄積がない。しかし、こうした映非商業上映の歴史も、各地域に多様な映画を鑑賞する場を築き、映像文化を育んだ重要な活動として捉えるべきである。

映画評論家の村山匡一郎によると、非商業的な上映活動は、概ね次の2つに分類できる。

1) 政治的あるいは啓蒙的な目的で行われるもの、政府や政党など各種政治団体、労働組合などが行うもの、2) 映画ファン、シネフィルとして行われるもの(「非商業上映の歴史：戦後の啓蒙運動からコミュニティシネマまで」『地域における映画上映状況調査 映画上映活動年鑑2004〔非映画館編〕』、国際文化交流推進協会、2005)。1)の事例としては、戦前の日本プロレタリア映画同盟、あるいは戦後の独立プロダクションと全国映画サークル協議会の連繫した運動などが挙げられる。それらの運動は1950年代から1960年代に停滞をみせ、以降2)の上映活動が増加したと言われる。映画産業自体の斜陽化が進行、映画館の観客動員数も激減するなかで台頭した2)については、自主上映グループや映画ファンが組織するシネクラブ活動などが挙げられる。観たい映画を自らの手で上映する欲求に駆動され、2)の上映会もまた各地で展開された。しかし、それらの自主上映の一部は、1980年代以降、小規模な空間で単館系ロードショーを行うミニシアターに移行、日本に輸入されていなかったヨーロッパやアジアの映画、あるいは国内のインディペンデントな作品を上映する商業映画館に変貌する。

本研究が注目したのは、こうした非商業上映の転換期と捉えるべき1980年代の映画上映環境だった。当該期に設立されたミニシアターなどの商業映画館と非商業的な上映グループの関係、あるいは映画を観たいという私的欲求と文化政策という公的活動の境界が揺らいでいった状況を検証し、映画受容のパラダイムがどのように変容を遂げたのか考察することを試みた。

研究開始時から念頭にあったのは、1980年代における非商業上映の変化が、のちに「公共上映」と呼ばれる概念を準備したと考えられる点である。「公共上映」とは、上記の自主上映グループの活動やミニシアター、あるいは映画祭、美術館・アートセンターなど、映画常設館に限定されない上映活動を指す。単館系映画を上映するミニシアターも、愛好家＝映画ファンの趣味的活動と捉えられかねない自主上映も、地域に多様な映画の上映機会を提供しているという面で、公共性を担う活動として新たに位置付けられた。この「公共上映」の概念は、国際文化交流推進協会(エースジャパン)が中心となり、1996年から開催されてきた「映画上映ネットワーク会議」ではじめて提唱された。ドイツのコミュニアル・キノ(市民映画館)や英国のBFI(英国映画協会)など、海外で展開されていた興行的な価値のみでは計れない、文化的価値を担う映画の上映機会を提供する活動を参考にした同会議は、のちに官民一体で地域の豊かな映像環境の実現を目指す「コミュニティシネマセンター」の活動に至るだろう。

しかし、日本で「公共上映」の概念が生じる前段階にあった非商業上映の活動とその歴史は、過去の上映関連の資料や証言も踏まえて、より仔細に検討されねばならない。例えば、「公共上映」という概念の認知が広がったことで、かつての映画ファンやシネフィルらが展開した自主上映などに対する歴史的な役割の理解が深まったと捉えられる面はある。だが、他方で上記の村山の区分にあった1) 2)にも示されていたように、多様な目的と動機に基づき開催されてきた非商業上映の性質を、公共的役割に還元する危うさも認められるのではないか。例えば、自主上映グループが全国各地に現われ、観たい映画を自らの手で上映することを唱え、旺盛な活動を展開してきた背景には、1960年代から1970年代初頭に勃興した学生運動や若者たちが中心となった、世界的なカウンターカルチャーの隆盛があった。既に斜陽化していた映画産業の外側で展開された、当時のインディペンデントな映画製作およびその上映活動には、オルタナティブな映画の製作・配給・上映のシステムを形成せねばならないという理念が掲げられてもいた。実際に自主上映の中で観られてきた作品にも、小川プロダクションが撮影した成田空港建設に反対する農民たちの闘争、土本典昭が記録した水俣病の患者の生とその支援運動など、国家の政策に対する強い疑問、政治・社会的な問題意識を示す内容が含まれていた。そして、映画館では観られないこうした記録映画の自主上映を担うために、全国的なネットワークが形成されたのである。

非商業上映の歴史の流れをいま一度検討するためのアプローチとして、「公共上映」という概念が生まれる前段階にあたる1980年代の映画上映の転換期に遡り、各地の上映グループやその担い手が、どのような目的を掲げて活動を展開してきたか、あるいはミニシアターのような商業映画館の経営に活動を移すのを企図したか、把握する必要があった。さらに

は、1980年代から増加した美術館などの公共ホールで開催された上映活動にも着目し、インディペンデントな活動のみに視野を限定するのではなく、文化政策の側面からも映画鑑賞の位置付けの変化を検証する作業を進めたいと考えた。

2. 研究の目的

本研究の狙いは、1980年代に日本全国で展開された非商業的な上映活動として、自主上映グループやシネクラブの活動および美術館やフィルムライブラリーなど公立の文化施設で開催された上映会の実態について調査し、検証することにある。調査を通して、当該期においてインディペンデントな上映活動の役割やその言説がどのような変化を遂げたかを探った。特に1990年代に映画常設館以外の上映空間を提供する活動が「公共上映」という概念によって整理される以前の非商業上映活動の意義として、上映活動の担い手たちが形成してきた映画文化、および各地の上映グループのネットワークの存在を明らかにしようと試みた。

3. 研究の方法

本研究が取り上げたのは、1980年代の非商業的な上映活動であるが、その調査範囲を大別すれば、自主上映グループやシネクラブの全国的なネットワークの形成と商業映画館への転換について、美術館・アートセンターなど公立の文化施設における映画鑑賞となる。それぞれの範囲の調査方法として、上映活動を行ってきた当事者に対するインタビューを重ねて行い、さらに上映グループなどが過去に発行した機関紙、プログラム、チラシ、関連書籍を入手し、活動の実態を探った。公共施設の調査でも、各施設の基礎資料に加え、催事のプログラムなどを収集していく作業を進めていった。

の調査研究の成果については、所属する日本映像学会で研究発表を行い、同学会の機関誌『映像学』に論文投稿を行い、公表に努めた。また、資料調査の成果を神戸映画資料館のウェブサイトで発表、さらに同資料館におけるパネル展示というかたちでも発表できた。その他にも招待講演(オンライン開催含む)の場で日本の自主上映活動やミニシアターの歴史についてレクチャーを行った。

なお1980年代に盛んに行われていた国際映画祭や地域の映画祭に関しては、調査対象の中心から当初は外していた。しかし、研究期間中に、1989年から始まった山形国際ドキュメンタリー映画祭の初期の状況をよく知る関係者に公開の場でインタビューをする機会にも恵まれ、一端を学べたことは幸いだった。日本で開催されてきた映画祭の歴史と文化についても、今後調査を進める道筋を得られた。

4. 研究成果

(1) 関西自主上映史の発掘

本研究では広く各地域の1980年代の非商業上映の調査を進めることを企図していたが、分けても関西地域において活動してきた上映グループやミニシアターについて、多くの貴重な歴史的資料を入手することができたことに加え、関係者の証言を得て、具体的な研究成果物を公表することもできたことを特筆しておきたい。

日本映像学会関西支部第95回研究会(於大阪芸術大学、2022年12月10日)において研究発表:「千年シアターと1980年代関西の自主上映文化」を行った。本発表では、小川プロダクションによる『1000年刻みの日時計 牧野村物語』(1986年)を上映するため、1987年夏の京都に一ヶ月間だけ存在した仮設の映画館「千年シアター」について、劇場を建築した関係者たちへのインタビュー取材、および提供された資料に基づき、その実態と意義について考察した。現在は発表内容に基づき、新たな調査成果も踏まえた論文作成を進めている段階である。

加えて、2022年度より「資料から辿る自主上映史」という自主上映グループの資料調査やインタビューによって得られた成果をレポートにまとめ、神戸映画資料館のウェブサイトにシリーズで4回分掲載することができた。内容は、実験映画・個人映画作家の小池照男が、1970年代から神戸の地を中心に行ってきた自主上映活動について筆者が行った講演の再録、さらに京都の上映グループである《シネマ・ルネッサンス》、四条大宮にあった自主上映スペースである《スペース・ベンゲット》の歴史、2023年に閉館した京都みなみ会館など関西地域の多数の映画館のプログラムに関わってきた《RCS》の活動についての記事がアップされている。

(2) プラネット映画資料図書館の調査研究

1974年に大阪で安井喜雄たちが設立したプラネット映画資料図書館は、国際的にもフィルム・アーカイブとしての活動が認知されている組織だが、映画フィルムと関連資料の収集と並行し、彼らが1970年代から開催してきた自主上映活動の調査や研究は、ほとんど行われていない。筆者はその上映活動の歴史を示すとともに、1980年代のミニシアター文

化と プラネット が勤めてきた自主上映活動との差異を考察しようと試みた。

まず、日本映像学会第48回大会（於京都大学、2022年6月1日）で研究発表「《プラネット映画資料図書館》の上映活動のアーカイブ化 - 1974-1987年まで -」を行った。発表では、1974年から1987年までの時代に焦点を合わせ、プラネットの自主上映の実態とともに、その活動が現れた背景にある、関西における映画文化の変遷にも議論を及ぼしていった。また同研究発表の議論を発展させた論文「《プラネット映画資料図書館》の上映活動 1975-1988年まで」『映像学』（第109号、日本映像学会発行、2023年2月）を発表した。論文内では、自主上映グループによる活動が人とモノ、空間の異種混交的なネットワークにおいて成立すること（時代や社会、メディア環境などの枠組みに還元できないこと）を把握するため、フランスの科学人類学者・科学社会学者であるブリュノ・ラトゥールらが提唱した、アクターネットワーク理論に依拠して議論を展開した。

なお2024年は、プラネット設立から50周年にあたっており、筆者は現在その活動の歴史をまとめた記念誌の制作作業に編者として参加している。同誌の発表を経て、これまでに安井たちが構築してきた草の根的な映画文化のネットワークとフィルム・アーカイブの活動、そして、その上映活動の歴史に対しても改めて注目されるのを期待したい。

(3) 美術館やアートセンターにおける上映活動の調査

筆者が客員研究員として所属していた、国立国際美術館で発行されている『国立国際美術館ニュース』において、「中之島映像劇場について」という連載執筆を全8回にわたり担当してきた。その連載の中で、美術館における映像上映の歴史やその意義についても議論を展開することができた。『国立国際美術館ニュース』241号に掲載された、「あいまいな美術館の映像/資料 中之島映像劇場について」では、1980年代末から2000年代初頭に同館が収集したビデオアートとその上映に関して、当時の資料を調査・検討し、今後のアーカイブ化の展望も示した。

また国立国際美術館において、上映会「第21回中之島映像劇場 美術館と映像 ビデオアートの上映・保存」を企画し、同館でU-matic(3/4テープ)に保存されていたビデオアートのデジタル化を行い、2021年9月18日、19日の二日間にわたって上映を行った。同イベントの開催に併せ、デジタル化したビデオ作品を手掛けた映像作家らに、1980-90年代の活動をめぐる証言を執筆していただき、配布資料として発行(国立国際美術館のウェブサイト内に設置されている「中之島映像劇場アーカイブ」のページで閲覧できる)講演会およびアフタートークも実施することができた。

今後の研究課題

研究開始の初年度であった2020年、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、当初の調査・研究の予定に狂いが生じたが、感染症の影響下でミニシアターなどの映画館や自主上映、映画祭などの価値や公共的役割が、改めて広く議論される機運が生まれてきたといえる。本研究が提示した視座は、こうした上映空間の公共性を歴史的に再考していく作業にも有益であることを示すため、『国立国際美術館ニュース』239号に論考「スクリーンの行方と自主上映 中之島映像劇場について」を公表し、コロナ禍において1970-1980年代の非商業上映活動を振り返る意義を検討した。また、大阪アーツカウンシルが協力した報告集『2020年、大阪の小さい場所におこったこと～新型コロナウイルス感染症拡大影響下における50人未満のアート拠点ピックアップ調査』において、プラネット映画資料図書館の自主上映活動から生まれた自主スペース、「プラネット・プラスワン」についての論考を掲載することができた(大阪大学大学院文学部文学研究科アートメディア研究室・古後奈緒子研究室発行)。以上の論考で記したが、過去の上映活動を検証し、記録を遺していく仕事には、未来の映画上映環境のあるべき姿を考察することにも繋がるだろう。こうした上映活動の歴史のアーカイブ化のための議論の構築に向け、研究を発展させていかなばならないことを、コロナ禍の期間中に強く意識させられるに至った。

一方で、1980年代の非商業上映の文化の地層をさらに掘り下げ、その形成過程を歴史的に考える視座を構築するには、改めて1960年代の日本で勃興したカウンター・カルチャーや政治運動とも重なり合った映画文化の状況を検証せねばならないという新たな課題が芽生えてきた。これについては研究期間中、記録映画作家の野田真吉たちが組織してきた杉並シネクラブなどの上映活動の資料を閲覧できる機会を得られたことも、次の段階へと調査を進めるための導きとなった。令和6年度より、新たに科学研究費助成事業基盤研究(C)を得た研究課題「日本における1960年代の映画観客を主体とした非商業上映活動の研究」として、その取り組みに着手しはじめたばかりである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 田中 晋平	4. 巻 109
2. 論文標題 《ブラネット映画資料図書館》の上映活動 1975～1988年まで	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 映像学	6. 最初と最後の頁 89-108
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18917/eizogaku.109.0_89	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 田中晋平	4. 巻 24
2. 論文標題 自主上映活動の研究手法の構築 アクターネットワーク理論を参考にして	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 日本大学芸術学部日本大学研究員研究報告書	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 田中晋平	4. 巻 23
2. 論文標題 千年シアターと1980年代の関西における映画文化について	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本大学芸術学部日本大学研究員研究報告書	6. 最初と最後の頁 17-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 田中晋平	4. 巻 21
2. 論文標題 1980年代の非商業上映活動の言説調査および分析	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本大学芸術学部日本大学研究員研究報告書	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中晋平	4. 巻 0
2. 論文標題 プラネット・プラスワン	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 2020年、大阪の小さい場所におこったこと【研究ノート】	6. 最初と最後の頁 6-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田中晋平	4. 巻 20
2. 論文標題 日本における1980年代の非商業上映と文化政策の研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本大学芸術学部日本大学研究員研究報告書	6. 最初と最後の頁 1-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

[学会発表] 計2件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 田中晋平
2. 発表標題 《プラネット映画資料図書館》の上映活動のアーカイブ化 - 1974-1987年まで -
3. 学会等名 日本映像学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 田中晋平
2. 発表標題 千年シアター と1980年代関西の自主上映文化
3. 学会等名 日本映像学会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

<ul style="list-style-type: none">・資料から辿る自主上映史 再録 神戸発掘映画祭2022 追悼・関西ゆかりの映画人 小池照男 https://kobe-eiga.net/special/1068/・資料から辿る自主上映史 《シネマ・ルネッサンス》の上映活動 https://kobe-eiga.net/special/1082/・資料から辿る自主上映史 《スペース・ベンゲット》の上映活動 https://kobe-eiga.net/special/1166/・資料から辿る自主上映史 《RCS》の上映活動 https://kobe-eiga.net/special/1224/・スクリーンの行方と自主上映 中之島映像劇場 https://www.nmao.go.jp/wp-content/uploads/2021/02/news238.pdf・あいまいな美術館の映像 / 資料 中之島映像劇場について https://www.nmao.go.jp/wp-content/uploads/2021/06/news241.pdf・第21回中之島映像劇場 美術館と映像 ビデオアートの上映・保存 https://www.nmao.go.jp/nakanoshima/theater_vol21/・聞き書き神戸映画史 映画館の『危機』の記憶を探る https://www.kobegakuin.ac.jp/education/faculty_humanities/news/57095f7041073a913675.html・関西自主上映史の掘り起こし 1970-80年代 https://kobe-eiga.net/programs/625/・自主上映とミニシアター 1980-90年代の上映文化の変化・チランに見る関西自主上映の歴史 https://kobe-eiga.net/kdff/program/2021/01/1806/・日本の「自主上映」文化研究 ジョナス・メカス『リトアニアへの旅の追憶』上映会と田中晋平氏による講演 https://note.com/1zumk/n/n4c31689e4f7e・安井さんの話を聞く夜 https://www.yidff.jp/2023/info/23events.html

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------